

【特許請求の範囲】

【請求項1】 円盤状をした容器の周壁部を一部切り欠いて開口部を形成し、前記周壁の外側面には蓋体の係合凹部を、内側面には開口作動部材の係合凹部を、それぞれ前記開口部を挟んで対称に設けると共に、前記円盤の底部中心には開口作動部材の押圧部を軸支する円筒軸を設けてなる容器本体に、開口片を有する一対の板状片を開閉支持部材を介して押圧部材に開閉可能に連結して構成する開口作動部材を、前記容器本体の係合凹部及び円筒軸に嵌着して、周縁部に係合片を対称に設けた円盤の中心部に開孔部を形成してなる蓋体を、前記容器本体に嵌着したことを特徴とする粒状物の収納容器。

【請求項2】 前記開閉支持部材に連結してなる一対の板状片は、平行した後端側部分と内側へ陥V字状に偏向せしめた先端側部分とからなり、先端側の開口部にすり合わせ面を形成した開口爪片を設けたことを特徴とする請求項1に記載する粒状物の収納容器。

【請求項3】 前記開閉支持部材に連結してなる板状片の先端部の開口片を、前記容器本体の開口部に開閉可能に設けたことを特徴とする請求項1又は2に記載する粒状物の収納容器。

【請求項4】 前記開口作動部材は、その押圧部が前記蓋体の開孔部に押圧可能に設けられ、押圧により板状片先端部の開口爪片を拡張するようにしたことを特徴とする請求項1に記載する粒状物の収納容器。

【請求項5】 前記開口作動部材は、前記押圧部材の下面に支持ピンを設けると共に、一対の開閉支持部材を拡張するように設けて、該開閉支持部材の先端部に開口爪片を有する板状片を連結して構成したことを特徴とする請求項1又は4に記載する粒状物の収納容器。

【請求項6】 前記開口作動部材は、板状片の後端部を容器本体の内側面の係合凹部に係合すると共に、押圧部材下面の支持ピンを容器本体の底板面の円筒軸に嵌入して、開口作動が可能に固定されたことを特徴とする請求項1又は5に記載する粒状物の収納容器。

【請求項7】 前記開口作動部材は、板状片の平行部分の中央付近に開閉支持部材を連結して、板状片の後端係合部を支点として先端部を拡張するようにしたことを特徴とする請求項1又は6に記載する粒状物の収納容器。

【請求項8】 前記開口作動部材の押圧部を円形の組状に形成して、その裏面中央部には支持ピンを、周縁部の対向位置には開閉支持部材を立設したことを特徴とする請求項4に記載する粒状物の収納容器。

【請求項9】 前記押圧部材を円形の組状に形成した開口作動部材を容器本体に嵌着し、中心開孔部を円形状に形成した蓋体を、該円形開孔部に前記円形組状が押圧可能に位置するように前記容器本体に係合して、押圧により板状片先端部の開口爪片を拡張するようにしたことを特徴とする請求項1又は3に記載する粒状物の収納容器。

【請求項10】 前記容器本体の開口部壁面または開口作動部材の板状片の開口爪片に、弾性部材を設けて容器の空間部に塵埃が侵入するのを防止したことを特徴とする請求項1乃至5に記載する粒状物の収納容器。

【請求項11】 前記容器本体の開口部壁面に、スポンジまたは不織布を貼付して塵埃の侵入を防止したことを特徴とする請求項10に記載する粒状物の収納容器。

【請求項12】 前記容器本体の開口部壁面に、繊維を植毛して塵埃の侵入を防止したことを特徴とする請求項10に記載する粒状物の収納容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、粒状物を収納した小型で軽量の容器に関する、更に詳しくは、容器の蓋部を取り外すことなく、容器を片手で持って指先で押圧するだけで、容器内に収納したハッカ等からなる結晶粒状物を適量づつ取り出すことができ、携帯に便利な容器に関するものである。

【0002】

【従来技術】従来から眼薬や丸薬、錠剤、仁丹（登録商標）その他の小さな粒状物を収納した小型の容器を、口臭防止剤や緊急飲用薬剤として常時携帯している人が、飲用に際して容器から内容物を取り出すには、容器を片方の手で持って、もう一方の手で容器の口部に組み合した蓋を握って、開口弁をスライドさせて取り出し口を連通するか、蓋を取り外すかしてから、容器を傾けて掌の上または口中に内容物を開口部から取り出す構造をしたものが、従来の容器としては多数を占めていた。しかし、従来のこのような容器は、片方の手で容器本体を持って、一方の手で一々蓋を開口してから内容物を取り出すようにしたものであるから、開口開閉操作が面倒であり、その上内容物を取り出すには蓋の口してから容器を傾けなければならず、こぼさずに内容物は取り出しにくく、使用が非常に不便であったり、また、ポケットやハンドバッグその他に携帯中に、振動その他により蓋が勝手にずれて開口して、収納物がこぼれる欠点もあった。

【0003】そこで、これらの欠点を改良した容器として、図8に示すように、断面が楕円形をした筒状の容器本体2に蓋体3を嵌合してなる容器1に於いて、前記蓋体3の長径側壁部に取出口4を形成すると共に上面部に円形の段部3aを形成し、該段部の外側寄りに円弧状の孔3cを設けると共に円盤の中心位置に軸孔3bを設け、前記円形段部3aに合致する位置に形成した回転軸5の下面に、前記軸孔3bに嵌合する回転軸5aと、前記円弧状の孔3cに係合して前記取出口4を閉閉するスライド弁5bとを設け、該回転軸5を前記円形段部3a面上に回転可能に嵌合して設けて、該回転軸5aを指先で両側だけに取り出し口の閉閉を可能にしたものがある。（実開昭53-124251号公報参照）

【0004】また、図6及び7に示すように、半楕円状をした底板2dに略V字状に浅い凹部2aを形成すると共に、前縁開口部4の開閉を行う揺動片5を設けた容器本体2に、略U字形の平板からなる蓋体3を係合してなる容器1に於いて、前記底板の前縁開口部近傍には、中央部分を後方へV字状に折り曲げた起立壁6を立設すると共に、該V字状起立壁6の両端近くは揺動片5用の支持軸8を突設して、該支持軸8に細長い板状体の中央部を凹溝状にしてヒンジ部5aとなした揺動片5を容器本体2の前縁開口部4を閉塞するように回動自在に嵌合し、前記V字状起立壁6により揺動片5の動きを制限して、粒状内容物を収容する空間を画成するように形成し、容器本体2の両側壁に設けた係合片2bに蓋体に設けたし形係合片3bを係合して容器を構成して、揺動片5の中央部を指先で押圧することによりヒンジ部5aが内側へ折れ曲がって、開閉部が支持軸8の回り回動して排出口4を開くようなものがある。(実公昭51-13075号公報参照)

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記したような容器は、いずれも、容器1を片手で持ったままでも取り出し口の開閉することが不可能ではないが、これらの容器では内容物を少量ずつ適量取り出すことが難しく、また、作動部材である回転盤や揺動片5が動き出しになっているので、ハンドバッグやポケットに入れたままで持ち歩いている最中に、これらの作動部材が移動して開口部4が不意に開いて内容物がこぼれることがあった。そこで、開口部の間隙を粒状物の粒径に合わせた隙間になるように調節可能にして、確実に適量ずつ取り出せるようになると共に、携帯中にも作動部材が不意に移動して開口することがないようにすることが必要である。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、薄っぺらい円筒状もしくは円盤状に形成した周壁部2aに、粒状物pを取り出すための開口部4と蓋体3を係止する係合凹部2bを形成すると共に、底板中心部に開口作動部材5の押圧部を軸支する円筒状2eを形成して容器本体2を構成し、一對の細い板状片5cを鉤状の押圧部材5aに開閉支持部材5bを介して開閉可能に連結して開口作動部材5を構成し、押圧部材5の下面に突設する支持ピン5eを前記円筒状2e内に軸着して、円盤の中心部に前記鉤状の押圧部材5aを押圧可能に円形開孔3aを形成すると共に、周縁部に係合片3bを形成した蓋体3を、前記容器本体2に嵌着して粒状物の収納容器1を構成して、鉤状の押圧部材5aの押し込み量を加減することにより、排出開口部4から粒状物pを適量ずつ容易に取り出し可能とし、また、携帯中に押圧部材5aの下面が不意に押圧されて、蓋内に陥没するのを蓋体の円形開孔縁で防止するようにした。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明は、円盤状をした底板2dに立設する周壁2aを切り欠いて排出開口4部を形成した容器本体2の周壁内周面に形成した係合凹部2cには、開口作動部材5を構成する一對の板状片5cを係合すると共に、周壁外周面に形成した係合凹部2bには、蓋体3の縁に設けた係合片3bを係合して構成した粒状物の収納容器1に於いて、一對の板状片5cを鉤状の押圧部材5aに連結してなる開口作動部材5と容器本体2の後部周壁面とで画成する空間部9に粒状物pを収納して、前記蓋体3の中央部に形成した開孔3a部内存する押圧部材5aの鉤面を押圧すると、排出開口4内に存する作動部材5aの先端部5dが押圧部材5aの押圧量に比例して開口するので、粒状物pを適量ずつ排出することができる。

【0008】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。図1乃至3に示すように本発明は、円盤状の底板2dの周縁部に周壁2a部を形成し、該周壁の一部を切り欠いた排出開口4を形成すると共に、該排出開口4を挟んで対向する位置の外周面には蓋体3を係止する係合凹部2bを、内周面には開口作動部材5を係止する係合凹部2cをそれぞれ対向して形成し、且つ、前記底板2dの中心部に開口作動部材5の押圧部5aを軸支する円筒状2eを立設してなる容器本体2を一体に成形して構成する。(図2)

【0009】相対向する一對の細い板状片5cの中央部後方寄りに、鉤状の押圧部材5aの下部に形成した開閉用支持部材5bに連結すると共に、先端側5fを略V字状に内側へ傾向せしめて、その先端部にすり合わせ面を設けた開口爪片5dを一体に形成してなる開口作動部材5(図2)を、前記容器本体2の係合凹部2cに開口作動部材5の後端部5gを嵌合すると共に、鉤状の押圧部材5aの下面に形成した支持ピン5eを前記円筒状2e内に軸着して固定する。(図3)

しかる後、円盤の中心部に前記鉤状の押圧部5aを押圧可能に形成した円形開孔3aを設けると共に、周縁部に一對の係合片3bを形成した蓋体3を、前記容器本体2の係合凹部2bに嵌着して、前記鉤状の押圧部5aを円形開孔3a内方へ押圧可能に固定すると、外見が化粧品コンパクト容器に類似した小型の携帯に便利な粒状物を収納可能な容器1を得る。(図1)

【0010】上記のような構造をした本発明を、粒状物を収納した容器として使用するには、蓋体3の係合片3bを容器本体2の係合凹部2bから分離して蓋部を開いてから、開口作動部材5と容器本体2の周壁2aとにより画成された空間部9内に、口奥防止の他の粒剤pを充填した後(図3(A))、再び蓋体3を容器本体2に嵌着する。上記したようにして収納した本発明の容器1から口奥防止の粒剤p等を取り出すには、容器の蓋体3の中央部に形成された円形開孔部3aに位置する押圧

部材5aの側面を、指先で矢印方向へ押圧すると、押圧部材5aが押し下げられるに伴って開閉用支持部材5bが傾いて横方向に押し扱げられるので、開閉用支持部材5bの先に連結した板状片5cは後端部を支点として外方へ押し扱げられる。(図3(B))

このようにして板状片5cが外方へ押し扱げられると、その先端部に形成する開口爪片5dが開いて容器本体2の開口部4に連通するので、容器1を少し傾けるだけで空間部9に収納した粒状物pを必要な数だけ取り出すことができる。

【0011】本発明は、上記したように押圧部材5aの下部に設けた一对の開閉用支持部材5bの先端部に、それぞれ対向して板状片5cを連結すると共に、板状片5cの先端方向をV字状に傾向せしめた先端に開口爪片5dを形成して開口作動部材5を構成し、前記押圧部材5aの下面に突設した支持ピン5eを容器本体の内筒壁2e内に抵着すると共に、前記板状片5cの後端部5gを係合凹部2cに係合して、開閉用支持部材5bにより板状片5cを押圧すると、先端部の開口爪片5dを開閉するようにした構造であるから、押圧部材5aの押し込みの押圧量に比例して開口爪片5dの開口が開くので、内容物の量に合わせて押し込みの押圧量を調節することにより、開口部4から粒状物を適量づつ取り出すことができる。

【0012】尚、図1乃至3に示するような構造をした容器の例では、容器本体2の開口部4の周壁の内周面と開口作動部材5の板状片5cの先端外側面との間に空間部2fが生じるので、このような容器1をポケット等に長時間入れたままにして置くと、開口部4の隙間2gから前記空間部2fに塵や埃が入り込んで溜まることがあって、衛生的に不潔感をもたらす恐れがある。

【0013】そこで、容器1の前記空間部2fに塵や埃が侵入するのを防止するためには、開口部4の隙間2gを生じないようにすることが必要である。例えば、図4に示すように、開口作動部材5の板状片5cの先端部の爪片5dに変形可能な小さな弾性片5hを設けて、該弾性片が開口部4の周壁内面に弾動するように構成することにより、前記隙間2gを密閉することができる。そして、前記弾性片5hは、板状片5cと一体に成形してもよいし、また、板状片5cを成形した後で爪片5dの外側面に接着剤や熱溶着により接合することも可能である。また、図5に示すように、開口部4の周壁内面にスポンジや不織布等の弾性部材2hを設けて、開口作動部材5の板状片5cの先端部の爪片5dが、前記弾性部材2h面に弾動して開口するように構成することにより、前記隙間2gを密閉することもできる。前記スポンジや繊維材は適当な大きさに切断したものを周壁内面に接着剤により接合したり、植毛状に接着したりすることにより容易に設けることができる。

【0014】本発明は、上記のような構成にして、容器

1の開口部に生じる隙間2fを塞ぐようにしたので、容器1内に収納した粒状物pを取り出すと、開口作動部材5の押圧部材5aを押圧すると、開閉支持部材5bを介して板状片5c先端爪片5dが押し扱げられるが、その際に、爪片5dに設けられた弾性片5hが開口部4の周壁内面に沿って弾動するか、または、爪片5dの外側面が開口部4の周壁内面の弾性部材2h面を押し弾動して爪片が開口されるので、容器の空間部2gに塵や埃が侵入することはない。

【0015】上記実施例に於ける本発明の開口作動部材5は、下面に支持軸5eを突設させて設けた鉤状の押圧部材5aと、その下部に連結する一对の開閉用支持部材5bと、支持部材に連結する対向した板状片5cからなるものを、合成樹脂により一体成形したものであるが、このように、必ずしも一体成形に限るものではなくて、適宜に分割した状態で成形した後で連結したものであってもよいことは言うまでもない。また、上記実施例に於いては、容器の形状として円形状をしたものについて説明したが、このような形状に限ることなく、楕円形状をしたものであってもよいことは言うまでもない。更には、押圧部材及び蓋体の開口部の形状も円形に限られることなく、楕円形その他の適当な形であってもよい。

【0016】

【発明の効果】以上述べたように、本発明の容器は、略円筒もしくは円盤状をした容器本体内部に、弾性応力を備えた一对の開閉用支持部材を鉤状の押圧部材で結合し、開閉用支持部材に板状片を対向して設けて構成してなる開口作動部材を、押圧により開閉可能に抵着固定して、押圧部材の鉤部を押圧する開口を設けた蓋体を容器本体に嵌着した構造であるから、容器1片手を持つように小型にでき、蓋を開けることなく、鉤部を押圧だけで、容器内の粒状物を必要な数だけ容易に取り出すことができ、また、携帯にも便利で不意に内容物がこぼれることもない。そして、蓋体は容器本体に着脱自在に係合して設けられているので、使用済の後は、蓋体及び開口作動部材を容易に分離することができ、容器の洗浄及び内容物の詰め替えを容易に行うことが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の容器全体を示す外観斜視図である。

【図2】本発明の構成部材を分解した斜視図である。

【図3(A)】本発明の容器の蓋体を分離した斜視図である。

【図3(B)】本発明の押圧部材を押圧した状態の蓋体を分離した斜視図である。

【図4】本発明の開口作動部材の開口爪片に隙間密閉弾性片を設けた斜視図である。

【図5】本発明の容器本体の開口周壁部に隙間密閉弾性材を設けた斜視図である。

【図6】従来例を示す容器の分解図である。

【図7】図6に示す容器の一部切り欠き図である。

【図8】別の従来例を示す容器の斜視図である。

【図9】図8に示す容器のA-A断面図である。

【符号の説明】

1 粒状物の収納容器

2 容器本体

2b 蓋体係合凹部

2e 円筒軸

3 蓋体

3a 開孔部

3b 係合片

4 容器の開口部

5 開口作動部材

5a 押圧部材

5b 開閉支持部材

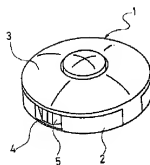
5c 板状片

5d 開口爪片

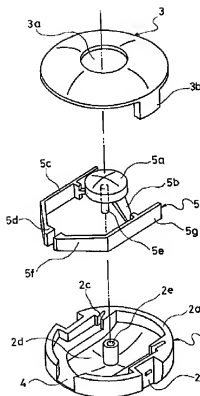
5e 支持ピン

p 粒状物

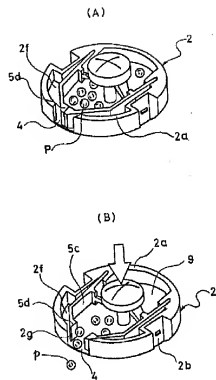
【図1】



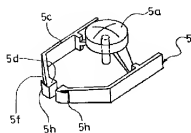
【図2】



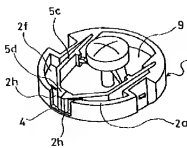
【図3】



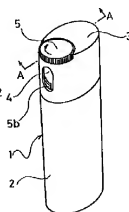
【図4】



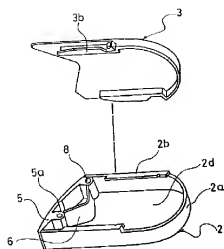
【図5】



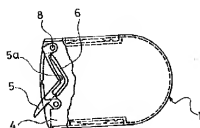
【図8】



【図6】



【図7】



【図9】

